

令和4年度学校評価報告書

令和5年3月22日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌北陵高等学校長 印

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

すべての教育活動について育成を目指す資質や能力を生徒に明示し、ICTの活用を図り、生徒が学び方を学べるよう推進する。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・55分授業が2年目となり、メリットを活かした学びの深化、探究活動の充実、育成を目指す資質・能力の向上に各教科で取り組む体制を構築できた。 ・ICTを活用した「授業力の向上」について、職員の自発性や創造性を引き出し、公式・非公式の研修会・情報交換を充実させることで個々のスキルアップや最低限のスキルの習得を図ることができた。 ・観点別評価では成果と検証を重ねることで指導と評価の一体化を図っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「みらいの教員育成プログラム」を高く評価する。教員になりたい生徒の資質・能力の向上やモチベーションアップに繋げて欲しい。また、高校生の段階で自分が教員に向いているのか不向きなのかを考える機会があるのは良いことだと思う。 ・55分授業を最大限に活用し、生徒に求める以上の授業改善や質の向上を先生方に求めます。 ・社会に出るとコミュニケーション能力や主体性、行動力が求められます。引き続き、この点を伸ばしてもらいたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ①各教科・教務ユニット・学習コーディネート会議の連携により、授業改善へ向けた教科研修の活性化と探究活動の充実を図る。 ②ICTを活用した授業力の向上と負担軽減に向けた校内研修・教科研修を充実し、授業や探究活動など様々な場面での活用を促す。 ③協同的な学習等の授業改善を進めて生徒の主体性の向上を図るとともに、生徒が学び方を学び、自発的・自律的に家庭学習に取り組む姿勢を養う。 ④55分授業や探究学習の充実と質的向上を図るため、「ファシリテート力の向上」を目指し、学習者の可能性を最大限に引き出す指導の充実を図る。 ⑤観点別評価の目的を理解し、指導と評価の一体化を図り、その後の授業改善や生徒の振り返りにも役立て、教育活動の質的向上を図る。 	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な声かけ・観察や面談週間を活用し、多面的な生徒理解を進め、支援的な生徒指導を行うことができた。 ・いじめ防止委員会と学年が連携し、積極的な情報共有を進めることで、未然防止やいじめに至る前の人間関係の把握とその対応を行うことができた。 ・スマートフォン等の校内利用規定や制服の着こなし等、校則の見直し・改定を図った。校則の見直し・改定を通して、生徒の校則に対する理解を深め、校則を自分たちのものとして守っていこうとする態度を養うとともに、生徒の主体性を培う機会にしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校則の見直しについて、教職員評価にCD評価が多く、前向きに校則を見直す機会にしてもらいたい。また、見直しや改訂の際には教員と生徒間の考え方の差を理解した上で生徒・保護者の声を聞き、見直しや改訂に反映させて欲しい。 ・18歳成人や18歳選挙権を見据え、身近である校則の見直しに生徒が積極的に関わることが当事者意識の向上や主権者教育の充実につながると思う。ぜひ、生徒の主体性を養う機会としてもらいたい。 ・いじめ対応は認識の甘さや対応の不手際から大きな問題に発展するケースがある。生徒・保護者と信頼関係を構築した上で、迅速・慎重な対応を求めたい。
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ①日常的な声かけ・観察や面談週間を効果的に活用し、様々な角度から捉えた生徒情報を共有・対応する環境を構築する。 ②互いを認め合える人間関係・学校風土を構築し、いじめに至る前の人間関係から支援を行う。また、保護者や関係機関との適切な連携を図る。 	

	<p>③校則の見直しや改訂とともに、スマートフォン等の使用や情報活用のモラルについて、生徒に考えさせる指導を実践する。</p> <p>④生徒や保護者、地域の意見・考えを踏まえたうえで見直しや改定を行い、生徒の校則に対する理解を深め、生徒の主体性を培う機会とする。</p>
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 共通テストの問題分析や学校推薦型・総合型選抜の対応に向けて、積極的に研修に参加し情報収集を行った。 多様化する入試方法に対応し、生徒の進路希望を実現するためには、進路Gと学年団・各教科がより緊密に連携する必要がある。戦略的かつ柔軟に対応する面では課題が残った。 1年生でのフィールドスタディの成果と課題を検証し、探究活動やキャリア教育の改善・充実を図った。今後もICTを効果的に活用し、外部機関と連携する体制を広げ、進路指導・探究活動の充実や指導方法の開発を推進していく。 <ul style="list-style-type: none"> 適切なデータ分析による系統的な進路指導、アドバイスが進路実績の結果に繋がっていると思われる。今後も生徒の進路実現を目標に授業改善・講習の充実に期待したい。 入試制度が変容する昨今、生徒や保護者への情報発信の重要性は高まっていると思うので、様々な機会を通じて周知して欲しい。 多様性が求められ、大切にされる時代だと思います。生徒の多様な生き方に対応できる進路指導・キャリア教育の充実を期待する。
改善方策	<p>①共通テストや学校推薦型・総合型選抜の動向を把握し、収集した情報を踏まえて具体的な対応策を進路Gと学年団の連携により、戦略的かつ柔軟に検討する。</p> <p>①キャリア教育・探究活動をとおして、多様な生き方や価値観に触れ・経験し・感じ、生徒自らが進路意識を高め、課題を設定し解決する力を育成する。</p> <p>③共通テストの問題作成方針の方向性やポイント分析を適切に行い、各教科における講習の達成目標と指導方法を全体で把握し、指導計画の改善充実に努める。</p>
健康・安全指導	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍が継続する中、生徒の変化や不安を見逃さないように教職員の情報交換の活性化を図った。また、いじめや不登校傾向の生徒の把握は日常的な観察や面談の充実により的確に行うとともに、関係機関と連携して組織的に対応することができた。 各種講演会や啓発資料を用いて、様々な危機や被害に遭わないための未然防止策、また、安全に対応するための意識や姿勢を育成することができた。 <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の社会情勢が少しずつ緩和されているが、付随するストレス等で対応に苦慮していると思う。今後も生徒に寄り添っていただけるように期待している。 多様な生徒や様々な悩みやストレスを抱えた生徒が増えていると聞いている。「困ったら相談してもいいんだ」「相談されたら聞いてあげる」など、様々な機会を通して、援助希求能力を身につけてあげて欲しい。
改善方策	<p>①日々の情報交換や各種調査を継続して実施し、生徒情報の共有を行う。あらゆる教育活動において生命尊重と心身の健康意識を高めるための啓発を継続する。</p> <p>②養護教諭やSCと学年の連携を密に行い、生徒の困り感やストレス等の把握と、その対応について組織的に展開する。</p> <p>③啓発資料等を活用したHR活動や各種講演会等をとおして、自他の安全状況を適切に評価・意思決定し行動できるよう、生徒の危機管理能力を育成する。</p>
公表方法	学校評価書をホームページに掲載

3 添付資料

- 令和4年度学校評価書
- 令和4年度学校評価に係るアンケート結果集計（教職員・生徒・保護者）